

自己点検・自己評価表（令和3年度）

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

今年度の課題及び目標を以下に示す。

学園の根幹は「より良い教育を提供すること」です。「よりよい教育を提供する」には経営基盤が安定していることは必須の要件ですが、根幹となる「教育」が良ければ、「退学者減少」や「入学者充足」へも良い影響を与え、盤石な経営基盤を構築できると思っております。そのためには、まず、「環境整備」が重要と考えております。コロナ禍に於いての学生の学習環境整備だけでなく、職場環境の見直しも実施していきたいと考えております。コロナ禍においても教職員が安心して働ける環境が「より良い教育」に繋がるとも思っております。また、今年度より看護学科の募集も開始されます。東洋医療総合学科2部と合わせ全学科定員充足に向け学生募集に取り組むとともに、さらなる退学者の低減を目指し「経営の安定化」につなげていきたいと思っております。更に昨年度、コロナの影響で十分に成果を得ることができなかった「教育活動の再構築」も継続して目標の柱として掲げていきたいと思っております。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) コロナ禍に於いて学生の学習環境及び職員の労働環境の見直しを実施する。
 - (1) 学生の学習環境を整える
 - (2) 職員の働きやすい環境の整備を実施する
- 2) 経営の安定化を図る
 - (1) 学生募集の見直し（特に看護学科三年課程・東洋医療総合学科2部）
 - (2) 退学者予防の実現（退学率低減プロジェクトチームの継続）
- 3) 自己点検評価の再実施に向けて教育活動の再構築を図る
 - (1) 人事評価制度の再開及び確立
 - (2) 自己点検評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会の再開を目指す
 - (3) 教育の質的向上のために各小委員会活動の継続

3. 評価項目の達成、取り組み状況

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
	理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	③	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1
理念等、将来構想を教職員に周知しているか	4	③	2	1

①課題

- ・ 関連する業界等のニーズを把握するための教育課程編成委員会を再開する必要がある。
- ・ 職員への周知は実施されているが、その度合いに関して検討する必要はないか。

②今後の改善方策

- ・ 教育課程編成委員会を3学科（リハビリテーション学科、東洋医療総合学科、看護学科）で実施する
- ・ 教職員への周知状況を確認する方法の検討。

③特記事項

- ・ 理念等将来構想の周知に関連して、令和3年度より事業計画書を策定することとなり継続して実施している。

2. 学校運営

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
運営方針、事業計画を教職員に周知しているか	④	3	2	1
設置法人は組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	4	③	2	1
意思決定システムを整備しているか	4	③	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	③	2	1

①課題

- ・理事長からの長期ビジョンや中期計画の方向性は示され、職員への周知が行われている。しかし、実際に職員へ伝わっているか疑問が残る。周知されたことが確認できるシステム構築が必要か。
- ・学生個人データなど業務上必要となる情報が一元管理できるようなシステムが構築されていない。
- ・意思決定システムに関し、ガバナンス体制の構築が早急に必要である

②今後の改善方策

- ・教職員との双方向性の伝達システムの構築が必要か。
- ・学籍データのクラウド管理について検討し、実現可能性について検討する。
- ・ガバナンス体制強化のために学校評価に関して基本的な見直しを実施する。

③特記事項

- ・システム導入にあたり委員会を設置し、導入に向けて本格的に検討を開始した。
- ・法人運営をより円滑に実施していくため、経営会議を企画した。ほぼ毎週開催することができた。

3. 教育活動

評価項目	4: 適切 やや不適切	3: ほぼ適切	2:	1: 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	④	3	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	3	②	1
キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
授業評価を実施しているか	④	3	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

①課題

- ・教育課程編成委員会の再開
- ・教員の育成目標並びに育成計画を明確に示せていない。
- ・教務部長、副校長の職に人員を配置できていなかったが、次年度の配置が決定した。

②今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を3学科（リハビリテーション学科、東洋医療総合学科、看護学科）で実施する
- ・教員の育成目標を明確に示す。

③特記事項

- ・特になし

4. 学修成果

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格・免許の取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	4	3	②	1

①課題

- ・卒業生および卒業生の就職先へのアンケートを実施できていない

②今後の改善方策

- ・卒業生アンケートを再開する
- ・卒業生の就職先へのアンケートを再開する

③特記事項

- ・東洋医療総合学科では就職先を一同に会して対面での就職ガイダンスを実施した。
- ・リハビリテーション学科においては、随時施設の方をお招きし、就職ガイダンスを実施した。
- ・専門分野就職率に関して、どの学科も専門分野への希望就職率は100%であった。
- ・国家試験の合格率はリハビリテーション学科 85.1% (47名中40名)、東洋医療総合学科 1部はあん摩マッサージ指圧師 100% (28名中28名)、はり師 100% (28名中28名)、きゅう師 100% (28名中28名)、東洋医療総合学科 2部はあん摩マッサージ指圧師 100% (17名中17名)、はり師 100% (17名中17名)、きゅう師 100% (17名中17名)、看護学科二年課程は 95.7% (23名中22名)、看護学科二年課程 (通信制) は 93.0% (215名中200名) であった。

5. 学生支援

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2:	1:
	やや不適切	1: 不適切		
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
地方からの入学生に対する生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・ 学生個々の就職に関する情報を、教務と事務とが共有できる環境づくりの整備が必要である。
- ・ 学生面談室の環境がプライバシーに配慮した設備となっていない。
- ・ 全学生を対象とした学校独自の経済的支援体制（奨学金制度）が確立できていない。
- ・ 人材育成センターを通じて、同窓会との連携体制を整えつつあるがまだ不十分である。
- ・ 退学者低減に向けて組織的な関りができていない。

②今後の改善方策

- ・ 履歴書添削や模擬面接などの指導内容を教務と事務とで共有する機会を設ける。
- ・ 同窓会組織の継続的な検討。組織の一本化も含めて検討の必要有り。
- ・ 学事システムを含めた学生管理システムの見直しが必要である。

③特記事項

- ・ 同窓会組織の一本化並びに活動の活性化を図るため、各学科担当者を選出し、会議を開催した
- ・ 退学者低減プロジェクトチームは継続したが積極的な取り組みが出来なかった。

6. 教育環境

評価項目	4:適切	3:ほぼ適切	2:やや不適切	1:不適切
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2	1
学外実習の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
海外研修の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

①課題

- ・美化の観点から施設・設備を見直し改善する必要がある。

②今後の改善方策

- ・美化の観点に基づく施設改善計画を立案し、実行していく。
- ・換気のための整備が必要（窓の開閉、空気清浄機の設置等）

③特記事項

- ・コロナの影響により、学外実習は軒並み中止となったため、学内での実習となった。
- ・コロナの影響により、海外研修（中国、米国）は中止となった
- ・コロナ感染防止対策として下記のことを実施した
 - a. 学校入り口に温度センサーの設置
 - b. 手指消毒用アルコールの各所への設置及び備蓄
 - c. 全在校生ならびに来校した入学希望者にフェイスシールドを配布
 - d. 1階窓口、2階窓口、面談室、各教室に透明アクリル板を設置した
 - e. 不織布マスクの備蓄

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4:適切	3:ほぼ適切	2:やや不適切	1:不適切
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	③	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	④	3	2	1

①課 題

- ・ 継続して定員確保に向けた募集活動の実施。
- ・ 新入生の受け入れに関して、今後、さらに 18 歳人口の減少が見込まれることから、社会人や外国人の積極的な受け入れを推進したい。

②今後の改善方策

- ・ リスキリング教育の充実
- ・ 外国人教育への積極的な取り組み。

③特記事項

- ・ 人材育成センターを通じて取り組みを開始した。次年度に向けてさらなる充実をはかりたい。

8. 財 務

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	②	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	③	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・看護学科二年課程の課程変更に伴い、2021年度、2022年度は学生生徒納付金収入が減額する。
- ・全学科での定員充足や退学者の低減が実現できていない（特に退学者低減）。
- ・各学科・部署毎の予算の執行状況を定期的に確認できていない。
- ・ガイドライン（専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン）に基づく項目での情報公開ができていない。（事業計画書、貸借対照表、監査報告書など）

②今後の改善方策

- ・学校として、各学科・部署毎の予算執行状況の管理体制を整える。
- ・財務状況に関する項目での情報公開を行う体制を整備する。

③特記事項

- ・法人の体制が変わったことにより、経営会議にて法人全体・学校別の月次での予算管理を実行するようになった。
- ・関係各位から寄付金の納付があった。

9. 法令等の遵守

評価項目	4: 適切 やや不適切	3: ほぼ適切	2:	1: 不適切
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	③	2	1
自己評価結果を公表しているか	4	③	2	1
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	①
学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	①
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

①課 題

- ・ 自己点検評価は再開できたが組織的な取り組みが出来ていない。
- ・ 活動が停止している学校関係者評価、教育課程編成委員会等の活動を再開する必要がある。

②今後の改善方策

- ・ 学校長がリーダーとなり、自己点検評価を教職員全員で再開する体制を構築する。
- ・ 学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会を 2022 年度より再開できるように取組む。
- ・ 情報公開ガイドラインに基づく情報公開を進めるとともに、学内でのチェック体制（内部監査）を明確にする。

③特記事項

- ・ 自己点検評価については研修会へ参加し、次年度に繋がる活動になった。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4:適切	3:ほぼ適切	2:やや不適切	1:不適切
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・学生ボランティアに関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・学生ボランティアに関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項

- ・コロナの影響により、おおたユニバーサル駅伝が中止となったが、大田区との協力により、おおた区民大学講座を開講することができた。継続して取り組む必要がある。

11. 国際交流

評価項目	4:適切	3:ほぼ適切	2:やや不適切	1:不適切
国際交流に取り組んでいるか	4	3	②	1

①課題

- ・法人の組織体制刷新に伴い、新たな国際交流の在り方を構築する必要がある。

②今後の改善方策

- ・人材育成センターを通して推進していきたい。

③特記事項

- ・グループ内の法人を通してベトナムとの交流が開始されたが、具体的な取り組みに至っていない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) コロナ禍に於いて学生の学習環境及び職員の労働環境の見直しを実施する。

(1) 学生の学習環境を整える

⇒マスク、アルコール、抗原キッドの備蓄などは十分に実施できた。また、発熱などの症状に対して公休扱いへの処理などがスムーズに実施できる体制を整えた。陽性者が出て感染拡大には至らず、学生への報告もタイムリーに実施できた。しかし、換気をよくするための窓の開閉に関しては、建物構造上困難であった。今後、空気清浄機の導入など予算をかけた解決方法が必要と思われた。

(2) 職員の働きやすい環境の整備を実施する

⇒感染拡大防止に係るグッズの備蓄に関しては前述の通りである。

また、在宅勤務に関する内規を整え、部署毎に在宅ワークの推進を実施した。

2) 経営の安定化を図る

(1) 学生募集の見直し（特に看護学科三年課程・東洋医療総合学科2部）

⇒広報室を中心に全教職員で取り組むことができた。看護学科三年課程においては、定員を埋めることができた。また、東洋医療総合学科2部に関しては28名中25名の定員を埋めることができた。昨年に比べてプラス5名となった。他の学科も全て定員を埋めることができ、一定の成果を認めた。

(2) 退学者予防の実現（退学者低減プロジェクトチームの継続）

⇒退学者低減プロジェクトチームでの取り組みを考えたが、人事評価システムの観点から少々消極的な取り組みとなった。しかし、学習管理システムを見直すための委員会が発足し、検討を開始した。今後、学習管理が一元化できるようになれば、一層の効果の期待ができると思われた。退学者の人数の昨年比は通学制 21 名⇒24名、通信制 18 名⇒32 名となり、いずれも増加する結果となった。

3) 自己点検評価の再実施に向けて教育活動の再構築を図る

(1) 人事評価制度の再開及び確立

⇒人事評価制度を再開した。今後は、より良い人事評価制度の確立が必要である。人事報酬委員会が中心となり推進していきたい。

(2) 自己点検評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会の再開を目指す

⇒学校長がリーダーとなり推進していく予定だったが、推進することは出来なかった。しかし、学校長が「専門学校の訓練・運営に係る内部質保障人材の養成講習」に参加し研修を修了したことは、次年度に繋がる活動になったと考えられた。

(3) 教育の質的向上のために各小委員会活動の継続

⇒4名の学科長が小委員会の委員長を務め活動を推進した。

それぞれ委員会を数回開催し、各学科での情報共有を実施した。業者からレクチャーも受け実施に向けての検討を開始した。しかし、費用面での問題もあり次年度に向けて継続課題となった。